

# アイ・シーたんなんだより 公立丹南病院



新病院完成図

## 外来の紹介

公立丹南病院 外来看護師長 山本美和子



公立丹南病院の外来は、14診療科による総合医療体制で、地域住民の皆様の健康と福祉に寄与するよう運営しています。また、丹南地区の二次救急医療機関としての役割を担っており、平成20年

度に救急車を受け入れた件数は831件、時間外に受診された患者様は9924名、1日平均約27.2名になります。

当院では、より高度な救急医療を行うために、PTLS(外傷初期診療・ACLS(二次救急蘇生)・救急症例検討会等、院内外の医療従事者や丹南地区の消防隊の方々を対象として学習会を行い、救急外来の対応に努めております。しかしながら、夜間の時間外受診に関しては、医療スタッフも少なくなり、日中と同じような検査・治療体制がとれません。そのため、症状が日中からある場合には、できるだけ時間内の受診をお願いしています。また、お子様の急病につきましては、小児科専門医師の診療が受けられる「夜間小児救急当番病院」や「こども救急医療電話相談」等への紹介をさせていただきます。緊急急変患者様の対応を円滑に行うために、ご理解とご協力をお願いいたします。

また、各診療科で患者様をお呼びする際には、個人名ではなく受付番号でお呼びすることを基本としていますが、時々気づかない方もいらっしゃいます。その際には、お名前でお呼び出することもあります。また、呼ばれないなど感じたときには、ご遠慮なくお声かけください。

私達外来スタッフは、「笑顔と心のこもった看護」をモットーとして日々努めています。病院内で困ったときには、いつでも気軽ににお声かけください。

# 公立丹南病院 在宅事業部開設!!

平成21年6月1日より、公立丹南病院「通所リハビリテーションセンター なごみの里」・「居宅介護支援事業所」・「訪問看護ステーション」の介護系事業所の3つが、「在宅事業部」として、名称も新に誕生しました。

また、在宅担当医として、(公立丹南病院)外科医の北島竜美先生を中心に、訪問診療・訪問看護・通所リハビリテーションと介護、それぞれの力を結集してますますのパワーアップを図ります。

公立丹南病院「在宅事業部」の機能は、それぞれの役割を持つ3つの事業所が力を合わせ、経営の母体である公立丹南病院の基本理念にそって保健・医療・福祉を実践することです。

病気や障害をもちながらも、自宅での療養



を希望される利用者の方々の生活を支えるために、生活に密着した親身なサービスを提供していくことです。

新病院開設までは、3つの事業所は離れ離れのままでしたが、17名のスタッフ一丸となって、自宅での療養が維持できるようサポート体制を強化していきます。

自宅療養に関する相談、介護保険の利用に関する相談等遠慮なく連絡ください。

## 公立丹南病院

〒916-8515 福井県鯖江市三六町1丁目2-31

公立丹南病院

TEL:0778-51-2260 FAX:0778-52-8620

ホームページ:<http://www.jadecom.or.jp/jadecomhp/tannan/html/>

メールアドレス:tannan-info@jadecom.or.jp

公立丹南病院 在宅事業部

居宅介護支援事業所

訪問看護ステーション

〒916-0021 福井県鯖江市三六町1丁目3-16-101

TEL:0778-52-2050 FAX:0778-52-2151

メールアドレス:tannan-zaitaku@jadecom.or.jp

公立丹南病院 通所リハビリテーションセンター なごみの里

〒916-0021 福井県鯖江市三六町1丁目2-31

TEL:0778-51-5234 FAX:0778-51-8242

メールアドレス:tannan-nagomi@jadecom.or.jp



# NST(栄養サポートチーム)の紹介

栄養管理は、すべての病気を治療する上で共通する基本的医療の一つであり、この栄養管理を、患者さん個々に応じて適切に実施することをNutrition Support(栄養サポート)といい、この栄養サポートを医師・薬剤師・看護師・栄養士などたくさんの職種がチームを作り、実践していくチームをNST(Nutrition Support team: 栄養サポートチーム)といいます。

丹南病院NSTでは、毎週火曜日の回診と、月1回の委員会・勉強会を行っています。その目的は、病気などで食べられなくなった患者さんに、摂食嚥下チームなどとも協力しながら、少しでも口から食べられるようになってもらうことです。人はだれでも幾つになっても、『食べたい』又は『食べさせてあげたい』と思うものだと考えます(皆さんもおいしいものを食べると幸せになりませんか?)。その人に必要な食事を必要な



だけ食べて(とって)もらえるようにすることが、NSTの最終ゴールです。

また、最近の活動として、薬の懸濁法の普及も行いました。口から食べられなくなった患者さんは、チューブから栄養剤やお薬を服用しています。これまでは、お薬をつぶして粉末状にしていましたが、薬が飛び散ったりして量が不安定になったりしました。最近、約55度の温湯に10分間浸しておけば懸濁状になり、簡単に投与できる方法(簡易懸濁法)が全国的に普及しつつありましたので、NSTが中心になって、全病棟でこの方法でお薬を投与できるような体制づくりをしました。

これからも、患者さんのために、栄養に関連するさまざまな問題を、チーム一丸となってサポートしていきたいと思えます。火曜日午後ぞろぞろ、いや、元気よく歩いている集団をみかけたら、気軽に声をかけてみてください。パワーの出る栄養剤、プレゼントします(サンプル品ですが)!。

